

# 子ども食堂ヒアリング調査報告書

平成29年5月

フードバンク福岡

## 1. 調査目的

本調査は、福岡市内で活動する子ども食堂を対象に、こども食堂を取り巻く現状の課題や運営者が目指す今後の方向性を確認し、フードバンクが子ども食堂を支援する際により効果的な方法や必要とされる食材を検討するために実施した。

## 2. 調査項目

- (1) 子ども食堂の概要について
- (2) 運営費について
- (3) 食材について
- (4) 衛生面・安全面の取組について
- (5) 運営上の悩み、目指す姿、感想など

## 3. 調査方法

- (1) 調査対象：福岡市内の子ども食堂（フードバンク福岡が食材提供した団体）
- (2) 調査期間：平成29年2月から平成29年5月
- (3) 調査方法：食材提供時にフードバンク福岡による聴き取りを実施した。以前から継続した食材提供を実施している団体にはヒアリングシートを配布し回収。

## 4. 調査対象団体数

- (1) 調査総数：8団体
- (2) 内 訳：東区 2団体 南区 1団体 西区 1団体  
博多区 2団体 城南区 0団体  
中央区 0団体 早良区 2団体

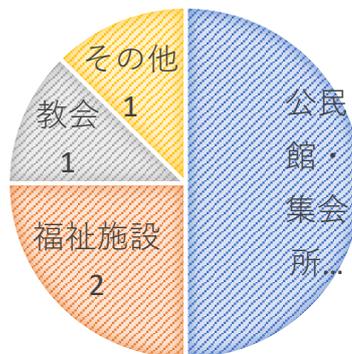
## 5. 調査結果

- (1) 子ども食堂の概要について
  - ① 団体の概要

名称	活動形態	スタッフ数	開催頻度	参加者数
A	住民有志	10名	2回/月	100～150名
B	運営委員会	10名（1～3名/回）	2回/週	20～55名
C	任意団体	10～20名	2回/月	50～200名
D	NPO	3～10名	2回/月	5～25名
E	任意団体	5名	2回/月	30～40名
F	住民有志	10名	2回/月	20～30名
G	住民有志	20名（12～3名/回）	2回/月	60～70名
H	NPO	9名（5～6名/回）	2回/月	15名

## ② 活動場所

活動場所は、公民館や集会所が半数を占めている。調理器具など施設に常設のものを利用することが多いが、不足する機器（炊飯器など）は毎回持ち込むなど、機材の搬入・保管に苦慮する団体もある。

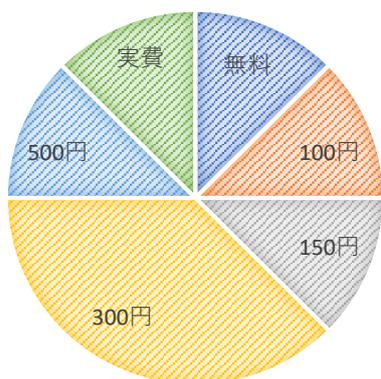


## ③ 開催頻度

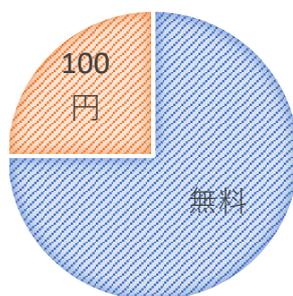
開催頻度は、1団体（2回/週）を除いてすべて2回/月となっている。これは、福岡市の助成金交付要件が最低2回/月以上となっていることの影響が大きいと考えられる。

## ④ 参加費用

参加費（大人）



参加費（子ども）

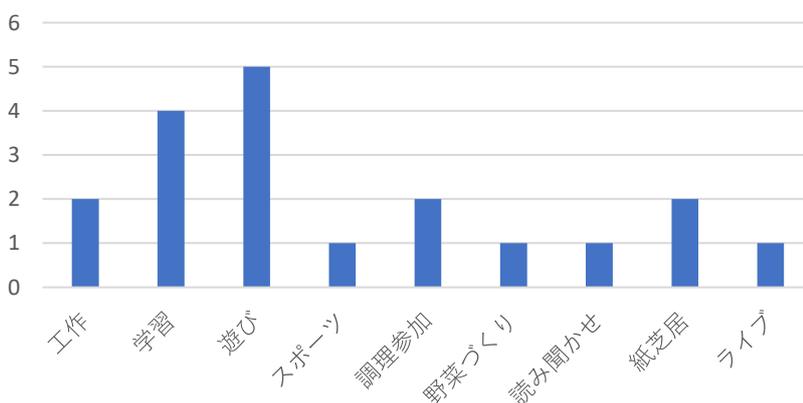


参加費は大人最大で500円（子どもは無料）となっている。子どもは無料とする団体が多い。その他、特徴的な事例としてお米1合持参という参加形態をとる団体もある。

## ⑤ 食事の提供以外の活動

食事の提供以外には、遊びや学習支援を実施する団体が多い。このほかに、ライブや野菜づくり、調理参加など主催者やボランティアの特技を活かした活動が行われている。

食事の提供以外の活動



⑥ 告知方法

チラシ配布とポスター掲示が主な告知方法となっている。チラシの配布方法は公民館設置、学校での配布、団地、自治会への全戸配布など多様。一部の団体では、SNS（フェイスブック）による告知や取材による広報も行われている。

(2) 運営費について

福岡市の助成金の範囲内+α（企業や個人の寄付）と参加費で運営されている団体が多い。一部の団体では、未使用であった補助金の返納もあるが、ほとんどの団体では補助金込で収支が保たれている。（参加費を低く抑えられている）参加費以外にバザーを実施して売り上げを運営に回す工夫をしている団体もある。

(3) 食材について

① 足りている食材と不足している食材

足りている食材		不足している食材・提供を望むもの			
鶏肉	米（冬場）	米②（毎回購入）	野菜③	ジュース	魚
牛肉	米（実験米）	米（夏場）	じゃがいも	お菓子②	肉②
リンゴ	米②	合わせ調味料	にんじん	デザート②	ハム
バナナ	お菓子	いりこ	くだもの	冷凍食品	ウインナー
トマト	野菜	カレールー②		洗剤、キッチンペーパー、文房具	

野菜や肉類は不足又は提供を望む団体が多い、米は足りているところもあれば毎回購入しており提供を望む団体もある。

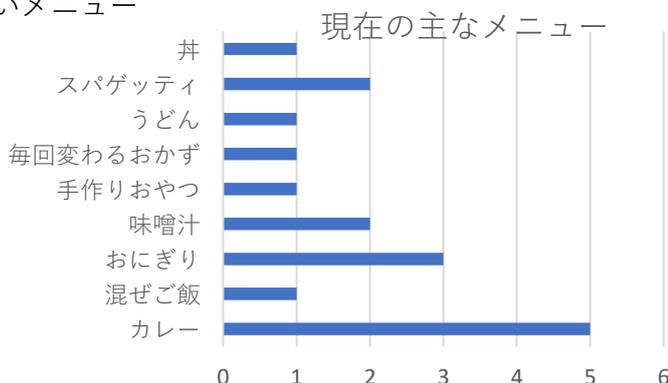
② 食品提供希望と受取方法について

すべての団体がフードバンクからの食品提供を希望しており、受取について事務所への来訪が可能としている。来訪可能のうち2件は場所によるタイミングが合えばとしており、フードバンクの食材保管について、今後、受取しやすい環境（駐車場、常駐など）の整備が望まれる。

③ 現在の主なメニューと今後提供したいメニュー

現在の主なメニューの上位はカレーが5団体、おにぎりが3団体。

今後、提供したいメニューとして季節感のあるものを提供したいと回答した団体が3団体あった。



(4) 衛生面・安全面の取組について

すべての団体がボランティア保険やイベント保険に加入している。また、衛生管理については、保健所指導に基づいて活動がなされている。特に気を付けていることとして、食材の当日調達や調理器具の熱湯消毒などが挙げられた。

また、管理栄養士を配置しているち回答した団体が1つ、食品衛生管理者を配置している団体が1つあった。

(5) 運営上の悩み、目指す姿、感想など

① 運営上困っていること

<b>【施設・物・お金に関すること】</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・複数の施設で実施しているため荷物の移動が大変</li><li>・借りている施設のキッチン狭い</li><li>・保管場所の確保</li><li>・開催場所の確保</li><li>・機材不足</li><li>・別事業で補助を受けているため子ども食堂に係る補助が受けられない</li></ul>
<b>【ボランティア・スタッフ、広報に関すること】</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ボランティア不足</li><li>・若いボランティア</li><li>・フェイスブックなど情報発信できる人材がいない</li><li>・SNSなど情報発信に長けたメンバーがいない</li><li>・子どもに説教をはじめてしまうボランティア</li><li>・スタッフ間の打ち合わせの機会が少ない</li></ul>

② 今後どのような子ども食堂を目指していくか

- ・明るく楽しい居場所となる様に。
- ・学習支援を行いたい。
- ・何事も継続が大事。今後、こうした活動を公民館等で広げていきたい。
- ・同様の活動をしてみたいという方を増やし、公民館等で広げていきたい。
- ・多くの子ども達に知ってもらって、傷ついている子どもや、疲れている子ども、ストレスの中にいる子ども、また大人の憩いの場となってほしい。
- ・学習支援や地域コミュニティが発展することへの貢献。障害者の放課後デイサービス、居場所作り。
- ・学習支援。学生ボランティアがほしい。
- ・毎日開いている親子で集える場所にしたい。特に、お母さんが悩みを気軽に相談できるような場所にしたい。

### ③ 運営したみた感想（良かったこと、難しいことなど）

- ・子どもたちのたくさんの笑顔がみれること
- ・子どもと地域の顔が見える関係が出来た。道で会っても気軽に声かけられる。
- ・子どものSOSを見落としがあった。地域スタッフの方は、もう少し早い時間から参加してくれると嬉しい。子どものSOSをキャッチできるよう、メンバーが学習する機会を設けたい。
- ・子どもが随分と落ち着いてきた。困ったことは、お料理教室と間違えて、つい子どもに「してあげる」大人がいること。また今後は、子どもの様子を見て背後に何があるのかを、メンバーが学習する機会を設けたい。
- ・いろいろな子どもや大人の方と出会えて一緒に食事が出来るのが楽しい。
- ・子ども達と一緒に調理や後片付けや野菜作りなどをやり、食育にもつながった。福祉施設の子供達にとっても役立っている。
- ・子ども達が喜ぶ顔を見れて嬉しい。地域のコミュニティが強くなる。
- ・大学のボラセンにボランティア募集をかけており、毎回1～2名のボランティアが参加してくれる。一人暮らしの大学生も関わりを求めているのかなと感じることがある。世代間の交流がとても楽しい。始めてみると沢山の協力者が現れて驚いている。

## 6. 考察

### (1) フードバンクから子ども食堂への食材の提供について

今回ヒアリングを実施したすべての子ども食堂でフードバンクからの食材提供を希望しており、食品の受取についても事務所への来訪が可能であると回答されていることから、子ども食堂は余剰食品を活用してくれる『引受先』としてフードバンクと相性が良いといえる。

しかしながら、不足している食品や提供を望む食品は生鮮食品や冷凍・冷蔵品が多い。こうした食材を扱える施設（サテライトオフィスのようなもの）や設備（冷凍・冷蔵庫、運搬用保冷BOXなど）の増強や、食材提供先と受取先を直接つなぐような仕組みづくりが今後の検討課題となる。

### (2) 子ども食堂への提供可能食品情報の伝達方法について

提供可能食品の情報配信にはメールリストやSNSといった手段が適しているが、いくつかの子ども食堂においてSNS等に長けたスタッフがいないという課題を抱えている。SNSなどの活用の手引きのようなものを作成し配布することで、情報伝達が容易になり、かつ子ども食堂の広報体制も増強されることが期待される。

また、子ども食堂が不足している食品のなかには、足りていると回答している団体もある。子ども食堂の情報技術に対する水準を上げることは、子ども食堂間の情報を繋ぐことを容易にする一助となり、さらなる食材の活用に繋がる可能性がある。

### (3) 子ども食堂同士をつなぐハブとしての役割

子ども食堂の活動形態は一樣ではなく、大学生などの若いボランティアを望んでいるが方法がわからない団体もあれば、大学のボランティアセンターを活用し毎回のように大学生が参加する団体もあるなど得意・不得意もさまざまであった。

複数の子ども食堂と対面につながっているフードバンクは、子ども食堂を繋ぐ役割を果たし、子ども食堂が抱える課題や実現したい目標を実現する手助けができると考える。

以上

## 子ども食堂ヒアリング調査報告書

発行年月 平成29年5月

発行者 フードバンク福岡

(事務所) 〒812-0043

福岡市博多区堅粕4-1-12

嶋井ビル2階21号

特定非営利法人ワーカーズ・コープ 福岡支部内

連絡先 TEL 092-441-7587